

様式2 令和7年度 清瀬市立清瀬第三中学校 学校評価

学校教育目標	人間尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。 1 思いやりのある生徒…【思考力】 2 自主性のある生徒…【行動力】 3 協力する生徒…【人間力】	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	1 「生徒誰一人取り残さない学校」を構築するために、不登校対策室（ステップルーム）、サポートルーム等の特別支援教育を充実させるとともに、端末を積極的に活用した個に応じた指導の充実を推進する。 2 「考える力」の育成を目指し、授業の質的転換を図り、「子どもを主語にした」授業づくりについて研修を深める。また、学校図書館を活用した学習情報センターとしての機能を充実させ、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。市民ボランティア等の協力を得ながら、生徒の学校生活の充実を図る。 3 安全・安心・安定して学ぶことができる学校を創造するため、本校の生活心得「あ（挨拶）・じ（時間）・み（身だしなみ）・こ（言葉遣い）・し（姿勢）」を教育活動の基盤とし、生徒が主体的に自治活動に取り組む「一人一人が輝く三中」を目指す。保護者や地域と一体となった取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通じて生徒の視野を広げさせ、「他とともに学ぶこと」の良さを体感させる。
目指す学校像(ビジョン)	1 生徒、教職員共に互いを認め合う学校 2 安全・安心が担保された環境の中で生活できる学校 3 笑顔で気持ちよく挨拶ができる学校		
【目指す学校像】	1 思いやりのある生徒 2 自主性のある生徒 3 互いに協力する生徒		
【目指す児童・生徒像】	1 確かな学力を身に付けさせる教師 2 生徒のロールモデルとなる教師 3 主体的に自己研鑽に励む教師		
【目指す教師像】			
前年度までの学校経営上の成果と課題			

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	・教科の特性に応じたICT機器の積極的な活用を推進する。 ・長期休業中、放課後、定期考査前の補習学習を実施する。	4	4	「あじみこし」を柱とした規律ある授業実践がすべての教科において定着してきており、特にデジタル学習基盤を前提とした授業展開が教員に意識されている。長期休業中や放課後、定期考査前の補充学習は、一定の効果が見られるものの、学力向上につながっているとは判断できない。	・教師主体の授業（一斉型）スタイルから子ども主体の授業（複線型）スタイルへと授業の質的転換をすすめていく。（研修部が主体となった教職員研修の充実とともに自己研鑽の奨励） ・「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」を実現するタブレット端末活用（スキル表の「可視化」）をすすめていく。
	・校内研修（参集型・オンライン・自主研修）の充実を図りながら、職能向上を図る。 ・「授業スタンダード」を定着させる。 ・図書館推進委員、図書館支援員を中心に読書活動を活性化させる。	4	3	授業スタンダード（見直し・振り返り）を定着させるために校内研修を充実させ、生徒が「主体的に学ぶ」授業について研究授業等を実施した。授業改善に対する意識は高まっており、今後も継続して「子どもを主語」にした授業改善に努める。また、図書館推進も移動図書館を設置するなど、本に触れあう機会を増やしたが、貸出数増加には至っていない。	・ワークライフバランスを意識しながらも、教師がアクティブラーナーのロールモデルとなるような研修体制を整備する。 ・読書に対する意識高揚を図るため、生徒が主体となった啓蒙活動（委員会活動）を確立させ、地域の方々にも協力を仰ぎながら、読書活動の推進を図っていく。 ・教職員の意識改革をすすめて、デジタルとアナログの利点を生かしたバランスのとれた教育を実践していく。
豊かな心の育成	・「考え、議論する道徳」を実践する。 ・各教科の中で人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識を向上させる。	4	4	生命尊重に関する授業を計画的に実施し、学年団で授業ローテーションを組んで実践するなど「考え、議論する道徳」の質を高めることができた。また、総合的な学習の時間のカリキュラムを充実させ、講演会等に様々なゲストティーチャーを招聘し、自他を尊重する意識を高めることができた。	・教育課程の評価・改善を図りながら内容項目をバランスよく編成していく。また、本校の重点項目については、特に生徒の思考力・表現力を大切にしたい道徳授業を展開し、着実に道徳心が育まれるようにする。 ・家庭への啓蒙活動を積極的に行うなど、学校と家庭の連携を強化する。
	・年間6回のふれあいアンケートの実施により教育相談を充実させ、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・アセスを活用した人間力の向上を図る。	4	4	ふれあいアンケート（年間6回）の実施や教育相談を充実させることで、いじめ未然防止の一助となった。ただ、昨年度からみると問題行動は大幅に減少したものの、基本的生活習慣の見直しや「あじみこし」の強化、実施方法の改善がさらに必要である。	・アンケート等を活用したエビデンスに基づく生徒理解・生徒指導に取り組む。生徒指導要を全教員に浸透させ、「生徒に寄り添い」生徒が「自己決定する」場を設けることで生徒の自己有用感を高めていく。また、心理的安全性が担保されるよう、自他を尊重する学級づくりにも力を注いでいく。
健やかな体の育成	・外部講師と連携しながら、個の実態に応じた運動方法を理解させ、それぞれの課題解決を図ることで、自己の体力増強に取り組ませる。	4	4	一校一実践を確実に実施することができ、生徒が自己のタイム等を掲示して目標距離の設定や個々にあった意識・体力向上につなげるなどの効果が見られた。また、筋力トレーニングだけでなく、柔軟を意識した準備体操を取り入れ、全国体力テストにおける課題の改善に努めることができた。	・一校一実践を柱とする継続した取組を重視し、家庭の協力も得ながら、体を動かす機会を増やしていく。また、自己の日常生活を振り返る場を設定し、個々の課題に応じた主体的な取組を醸成していく。 ・学校課題解決に向け、民間施設等を有効活用しながら体力向上に努める。
	・健康・安全指導や食育への理解促進に努めていく。（外部講師の招聘） ・食物アレルギーに関する危機管理体制を強化していく。	4	4	保健・給食だよりの定期的な発行や保健給食委員会・放送委員会の活発な活動を通して、食育や健康管理への関心を高めることができた。今後も、外部講師の有効活用とともに、日常から健康・安全への意識向上を図っていく。	・健康、安全に関する指導の充実に向けた取組を工夫し、本校の健康・安全指導や食育への理解促進に努めている。 ・食物アレルギーに関する危機管理マニュアルの見直しや組織的な対応、体制づくりを強化していく。
特別支援教育の充実	SCや不登校巡回教員から専門的な知識を取り入れながら、支援方法を検討し、組織的・計画的に生徒に寄り添った指導・支援を行う。	4	4	特別支援学級に在籍する生徒は明るく雰囲気も良く、充実した教育活動が行われて様子が伺える。 ・学校説明会では、生徒の特性に応じた教育を受けたという声が多数聞かれた。	・教育活動全体を通して、「誰一人取り残さない」視点を重視し、だれもが安心して教育を受けることができる環境改善に尽力していく。 ・生徒一人一人の特性や多様性に配慮した指導・支援を実施していく。（心理的・物理的な障壁を取り除く）
	・登校しつらさの早期発見と対応についてステップルームを活用しながら、登校支援を行うと併し、オンラインによる学習支援を行う。また、外部機関（フレンドルームやフリースクール）との連携のもと、不登校生徒の学びを保障する。	4	4	不登校生徒に対する方策について、特別支援委員会（毎月）を機能させ、いじめの未然防止・早期発見につなげるためのリストを作成し、具体的な取組を協議している。また、ステップルーム支援員の増加によって支援・見守り体制が充実してきたが、今後は支援員等の効果的な活用方法が課題となっている。	・学校における「居場所づくり」（居心地の良い空間）の充実にも努め、誰もが安心して通える学校づくりに傾注する。 ・不登校生徒等に対する「学びの保障」を確実に実施する。 ・支援員等の有効活用を再度吟味し、協働体制の構築を図っていく。
本校の特色	・きよせつホールの音楽の講話を実施する。 ・清瀬空手道連盟から講師派遣による授業を行う。 ・地域イベント、お祭り、青少年協行事のボランティア活動に参加する機会を奨励する。	4	4	「地域とともにある学校」を実現するため、講師やゲストティーチャーを積極的に招聘し、授業等における講演や指導等に活用している。また、地域で行われている行事や諸活動にボランティア・ゲストとして参加しているが、生徒全体の地域への参加意識は、まだ高いとは言えない。	・地域との連携を強め「地域とともにある学校」の実現を図る。 ・ボランティア活動を通して、生徒に対して他者理解・自己有用感を醸成していく。 ・生徒の社会参画意識のさらなる向上に努める。 ・地域の人材活用に積極的に取り組み、CSの活性化を図っていく。
	・学校ホームページの更新と閲覧状況の確認をする。 ・学校行事、学校便り、学年・学級便り等をHome&Schoolの活用によって情報発信し、広く周知する。	4	4	学校・学年・学級により、その他の発行物、Home&Schoolを積極的に活用して配信し、ペーパーレス及び働き方改革につながっている。また、学年行事等の様子も配信し、保護者から好評を得ており、個人情報の適切な管理のもと、学校からの情報発信は適切に実施できている。しかし、閲覧数やアンケート調査の実施率等が低迷していることが課題である。	・本校の教育活動に関する情報を積極的に発信し、理解促進に努める。（個人情報の適切な管理を徹底する）